

[第 360 回朝食会結果]

生成 AI、ChatGPT の活用や問題点、課題について研鑽しました!

横浜国立大学院教授 森 辰則先生をゲストに開催

朝夕肌寒さも感じる 11 月 21 日(火)HOTEL THE KNOT YOKOHAMA において、「第 360 朝食会」を 44 名の出席で開催いたしました。



今回のテーマは、これからの時代は「AI との共存」といわれるほど、企業の働き方を変えとも言われており、急速に普及する反面、デメリットも生じていることから、生成 AI、ChatGPT を正しく理解するために、横浜国立大学大学院環境情報研究院社会環境と情報部門教授 森 辰則先生(写真左)をゲストに「ChatGPT とは、AI、ChatGPT の活用や問題点、課題について」を開催いたしました。

加藤卓郎会長が海外出張のため、花本高志副会長(株ダイイチ)より、早朝から多数出席いただいたこと、11 月 8 日に開催された「創立 40 周年記念式典&祝賀会」が、担当委員のご尽力により心に残る式典となり、盛会に開催できたことへのお礼及び本日の講演への期待が述べられました。事務局より、初出席の方々の紹介、連絡事項を報告し本題にはいり、講師の紹介を行い講演に入りました。

講演では、生成 AI が注目を浴びているのは、画像生成をしてくれる AI と文章を生成してくれる AI で、本日のテーマの ChatGPT は文章を生成してくれる AI であることが説明されました。何を学習しているかによって、例えば画像であれば画像生成 AI、文章であれば文章生成 AI になるとのこと。

どんな事が出来るかについてですが、これは教示の仕方によって変わってきます。つまり、学習の仕方によって生成されるものが変わってきます。結局、どういう風に学習しているかに強く依存をしているという事でした。

画像生成 AI がどのような仕組みで成り立っているかについてですが、まずは大量にデータを集めてくるということを行います。どのようなデータかと言いますと、画像と、それを説明する文章との組を沢山集めたものです。人間がその画像を見ながら説明を与えている文章が学習されるので、こういう画像を生成してと文章でお願いするとその画像が生成されてくるとのこと。

文章生成 AI の仕組みは、画像に比べるとはるかに簡単で、あるテキストがあった時に、そのテキストの途中まで与えるとその次の言葉を出すという事を学習するようにデータを与えているとのこと。

色々な生成 AI がありますが、方式或いは蓄えられている情報によって出てくるものが違いますので、作っている側はしのぎを削っているとのこと。

ChatGPT における GPT とは、頭文字語であり、技術的な話になりますが Generative Pre-trained Transformer (ジェネレーティブ・プリ・トレインド・トランスフォーマー) の略との



こと。Generative は、生成的なこと。Pre-trained は事前学習済みという事になります。大規模なテキストで前もって訓練をしますという事。Transformer は変換をするものという意味であり、グーグルが開発した汎用の AI の仕組みであり、それが、生成 AI として色々な所に広がっています。GPT も Transformer という仕組みを使っているとのこと。

Hallucination、すなわち、尤もらしい嘘がでてきてしまうという事については、言葉をどんどん順番に吐き出しているだけなので、中に蓄えられている情報によって生成される内容に偏りが生ずることもあり、ChatGPT などの生成 AI の課題となっているとのこと。

以上のように、ChatGPT に代表される生成 AI の概要や技術的な面、課題などについて講演いただきました。

講演後の質疑も、具体的に利用する場合の問題点他多数の方が質問をされ、講師より丁寧に回答いただき、閉会后多くの方が名刺交換をされるなど、関心の高さが伺われる朝食会となりました。

